



三本木原を一直線に進む十和田鉄道の列車。開業を控えた試運転の1コマ。

1922年 所蔵：宮田憲誠

十和田観光電鉄開通の歩み

十和田観光電鉄は、JR東北本線三沢駅から三本木原台地を稲生川（三本木原用水）に沿いながら十和田市までを結ぶ、全長14.7kmの電気鉄道です。十和田市、三沢市、六戸町の2市1町にまたがっています。平成19年10月1日現在では1日18往復の電車が運転されており、全線を26分で結んでいます。

「九カ年来苦心ノ経営全ク成リテ大正十一年九月四日ヲ以ッテ開通スルヲ得タリ。地方交通機関ノ為祝福ノ至リナリ。事業ノ勃興ト共ニ前途益々見ルベキモノアルベシ」と開通式には、町をあげての盛大な祝賀会が開催されたと、当時の営業報告書に記載されています。

前身となる十和田軌道株式会社は大正3年6月に設立されました。昭和26年に社名を十和田観光電鉄株式会社と改称し、国立公園十和田湖の観光事業を担う会社として再出発しました。時の文人大町桂月の「住まば日本の本 遊ばば十和田 歩きや奥入瀬三里半」や当時、青森県知事であった武田千代三郎、十和田村長の小笠原耕一らの努力により、十和田湖の美しさは新日本八景に選ばれ、広く世に宣

伝されるようになりました。

十和田湖が全国屈指の観光地として有名になるに従って、各地から訪れる観光客が増えるとともに、県立高校が沿線に建設・移転されたことで、電車の利用客が165万人を超えるまでになりました。

しかし、昭和43年の十勝沖地震により被害を受けた施設の復旧や過剰な観光事業への投資、労働争議などがあつたため、昭和44年に国際興業株式会社の傘下になりました。

以後、昭和57年まで経営が順調に推移しました。

その後、自家用車や大型トラックの普及、社会構造の変化の影響を受け、乗客や貨物輸送の減少により、当会社は厳しい経営を強いられるようになりました。

このため、貨物輸送については、昭和61年に廃止しました。また、ワンマン運行やダイヤの削減、労働条件の改廃、賃金カットなどの自助努力による経営改善に取り組みました。

しかし、安全運行にかかる設備投資などのため、平成18年までに多額の累積赤字を抱えることになりました。

大正2年8月22日

地元の有志、遠藤忠次右衛門氏ほか9人が発起人となり軌道敷設特許並びに一般運輸営業許可状を得る

大正3年6月26日

十和田軌道株式会社設立

大正9年10月30日

十和田鉄道株式会社と改称

大正11年9月4日

東北本線古間木(現三沢市)から三本木(現十和田市)間が開通

大正11年9月5日 開業

大正15年9月7日

旅客自動車運送事業兼営

昭和26年6月20日

鉄道軌間拡張電化

昭和43年5月16日

十勝沖地震により全線路壊滅的な被害を受けたが、同年中に復旧し営業

昭和60年10月28日

十鉄ターミナルビル建設

十鉄ターミナルビルへ十和田市駅が移転

昭和61年10月31日

鉄道貨物営業廃止

平成7年10月1日

電車ワンマン運転開始

平成8年7月4日

ダイヤとしてつ三沢店オープン

平成18年2月28日

とうてつ駅ビル店ダイヤ撤退

平成19年3月31日

十鉄ターミナルビル閉鎖